２０１９年１１月１日

kaisousanbu

男女共同参画だより

「男女共同参画」と聞くと、「難しい」「よくわからない」と思うかもしれませんが、実はごく身近にあるものです。そんな身近なところにある男女共同参画や、市町の地域推進員が日頃行っている男女共同参画推進活動を紹介します。ぜひご覧ください！

今日も元気、いきいきママさん　活躍中！　旭市（宮穂広子・伊藤浩子）

オープンから半年余り、子育て中のママさんが活躍する「アンビコグリル」さんに伺いました。

明るく開放的な店内で出迎えてくれた素敵なママさんは、石毛文(あや)さんです。文さんは、６年前から自宅の養豚のブランドの周知、ＩＳＯ国際規格の取得に動き、レストラン開店の夢を描いていました。そして、２年前美容師のキャリアを捨て、調理学校へ通い、着々と準備を開始したのです。その間家族はもとより、ママ友達のキャリアを生かした心強い協力で、メニューの作成やケーキ作りに励みました。彼女たちは、開店した今もスタッフとして明るく支えてくれる存在だと感謝しきりです。

「ちなみに『アンビコ』と言うのは『へその緒』という意味です。皆が繋がり、地産地消で地域に貢献したクオリティの高いレストランを目指して行きたい。」と力強く語って下さいました。

周りへの感謝の気持ちを忘れず、人と人とのつながりを大切に頑張っておられる姿は生き方のお手本かと思われます。妻、３人の子の母、経営者という立場で、大変なご苦労をしたと思いますが、そのお顔は明るく輝いており、頼もしかったです。

「次世代へ　いざ　土木女(どぼじょ)！」　大網白里市（矢部春美・三木美佐子）

皆さんは、「土木女(どぼじょ)」という言葉をご存知ですか？建設工事など土木関係の仕事場で働く女性のことです。

市内の（株）鈴木工務店で働く佐久間彩さんは２０代の数少ない土木女(どぼじょ)のひとりです。きれいなネイルとさわやかなお化粧で「きれいにしていらっしゃるな」という印象でした。彩さんがこの業界に入るきっかけとなったのは、この仕事をするお父さんを見て「かっこいいな」と思ったからだそうです。

現在入社４年目ですが、大きな建設機械を運転するための資格や、現場の施工管理に必要な資格を一つ一つ取得しながら経験を積み、力をつけていけることがうれしいそうです。また、現場監督も任され、「結婚してもずっとこの仕事を続けていきたい。」と話してくれました。会社には育休制度もあり、女性が安心して出産・子育てができる環境が整えられているそうです。

仕事に誇りをもち、楽しく前向きにチャレンジし続ける彩さん。紫外線がちょっぴり気になると話していましたが、とても頼もしく見えました。

新しい農業にチャレンジ！～ウッド村ファーム～　銚子市（金尾記子・岩瀬賢氏）

キャラクターと共に銚子と農業を元気にしていくことを目指し「ウッド村ファーム」として活動する木村夫妻を取材しました。

「ウッド村ファーム」では、規格外トマトを使った「トマトチキンカレー」を販売。漁業・商工業と連携したイベントや音楽イベントなどを実施し、オリジナルＣＤも作成しています。

晃子さんは、昨年度「農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞」を受賞！！

また、ウッド村が生んだトマトのオリジナルキャラクター『リコ』は、市の特別観光大使として活躍し、子供達にも大人気です。

はじめはもっとお洒落なイメージで進めたいと思っていた妻の晃子さん。しかし、夫の趣味である「アニメ」を活かし、キャラクターをつくることで、夫婦で楽しみながら協力し合える環境を作り上げました。「歴史ある農業を大切にしながら新しい事に挑戦したい」と夫婦二人三脚で銚子の盛り上げに挑む姿に感動しました。

トマトをイメージした
キャラクター『リコ』

いきいきと活躍中、女性の宮司さん　東金市（石川安子・古川煌子）

八坂神社の宮司・中嶋祐子さんは、小学校６年生の時に中世から続く神社を継ぐことに決まり、現在では東金市を含め近隣の３６の神社を受け持っています。

男性の宮司さんが多いなかで、ご苦労は？と伺うと、やはり体力的な面で大変とのこと。年末年始も休みなく、おびしゃの時は朝から６つの神社をまわってお祓(はら)いをすることも。

現代の実情に沿うような様々な取組みにも力を注いでいます。今年は県内産の材木を使い、現代の住宅事情にも応じた「モダン神棚」を製作。また地元の方々の協力も得て「竹とうろう祭り」、空き家を利用して昭和レトロを味わえる民泊事業も手がけています。巫女(みこ)鳥(どり)「アジサイ」が近隣の趣ある神社を紹介するホームページも開設しています。

こうした取組みを通じ、「世の為、人の為に、誰にでも出来る事なんだということを伝えたい」とおっしゃいます。謙虚に、しかしエネルギッシュに活躍される姿に、こちらが元気をいただけました。

千葉県男女共同参画地域推進員とは

男女共同参画社会づくりを進めていくためには、県民一人ひとりの意識を高めることが必要です。

そのため、千葉県では「千葉県男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、地域推進員は県内６つの地域に分かれて活動しています。

地域推進員は、地域と市町村・県とのパイプ役となり、各地域の特性を踏まえて、講座・講演会の開催や広報紙の配布などの事業を通じ、地域での男女共同参画の意識の普及・啓発をしています。

海の駅九十九里に女性駅長誕生　　九十九里町（松木加津江）

九十九里町の観光拠点「海の駅九十九里」に小関順子駅長が誕生しました。千葉県観光公社（サンライズ九十九里）の男女共同参画に対する考え方として、積極的に女性の登用に取り組んでいるようです。

サンライズ九十九里さんには、第１回目の「男女共同参画だより」発行の際にもアンケート調査にご協力いただきました。

小関駅長は現在４４歳で、ご主人・ご両親の協力を得ながら２人のお子さんを育てられています。１８人の従業員のまとめ役として活躍中で、「働いていて良かった」と思ってもらうようになりたいと…。駅長としての苦労は、集客はもちろんのこと、イベントなども考え、いろいろなアイデアを思い浮かべているそうです。

自分らしく、やりたいことがある時はハッキリと言えるようにしたいとのこと。取材中のハツラツとした笑顔が印象的でした。

国際理解と男女共同参画―TOKYO 2020 をきっかけに―　　山武市（佐藤君江）

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会で、山武市はスリランカのホストタウンに登録されています。これを機に山武市ではグローバル化が進んでいます。

市のホストタウン事業で日本人とスリランカ人との橋渡しを担う女性が、サジーワニー・ディサーナーヤカさんです。サジーさんは山武市地域まちづくり支援員として、在住外国人の生活支援活動や、国際理解の深化を目指すさんむグローバルセンターの活動をしています。さらに、山武市東京オリンピック・パラリンピック戦略推進室の仕事もこなすスーパーウーマン。

「私は困っている人を助けたい。そして、山武市がスリランカを選んでくれたのだから、私も市のために働きたい。」とサジーさんは話してくれました。

ホストタウン事業を通じて市民一人ひとりが国際理解を考え始め、外国の人々を受け入れていくグローバル社会は、私たちが目指す男女共同参画社会と同じ「お互いが認め合い支え合う社会」です。

心をつなぎ・笑顔をつなぐ“こどもレストラン”　　横芝光町（半田美智子・伊藤清美）

６月３０日、横芝光町民会館には小学生から高齢者までの老若男女が集まっていました。体験を通した異世代間交流や障害を持つ人との交流を主な目的とした「こどもレストラン」の開催です。小学生を中心としたスタッフを高校生や大人がサポートします。コックさんとしてカレーライスと野菜サラダの調理を担当する子、お客様係として受付や案内を担当する子。最初はぎこちなかった子ども達でしたが、１５０名のお客様へのサービスを終える頃には、どの子も自信と笑顔に満ち溢れていました。

手作りカレーを提供する子ども達と地域の人達
「心のバリアフリー」を目指す“こどもレストラン”

後日、このイベントの発起人の一人である町内事業所(有)あいの手介護サービスの田北淳子さんに取材をさせて頂きました。彼女の「人との関わりの中から“自分探し”のお手伝いができたら幸せ」という言葉に心を動かされました。

「人をつなぐ・心をつなぐ・笑顔をつなぐ」“こどもレストラン”。今後もこの取り組みが、地域に笑顔の輪を広げることを期待します。

二人三脚！芝山町のブルーベリー農園　　芝山町男女共同参画担当

今回は芝山町で、ブルーベリー農園を経営している「ファーム鈴木」の佐藤拓也さん・えりこさんご夫婦にお話を伺いました。

４年前、芝山町でえりこさんの叔父さんが経営していた農園で結婚式を挙げた佐藤さんご夫婦。以前、東京で働いていたお二人ですが、一緒に過ごす時間が取れないことや子供が産まれた事をきっかけに芝山町へ移住し、叔父さんの農園を一緒に経営しつつ、引き継ぐことになりました。

「農園は無農薬のため、草刈りや害虫を手作業で駆除する作業は大変だけど、大切に育てたブルーベリーをお客様から『おいしい』と喜んで貰えるのは嬉しい」と語るお二人。仕事と家事・育児の両立はどのようにしているのかを尋ねると「それぞれ担当を決めると感謝を忘れてしまうので、気付いた方がやるようにしています」とのことでした。

男女で役割を決めず、助け合いながら共に働く佐藤さんご夫婦の姿はとても輝いていて、男女共同参画の意識が当たり前に根付いていると感じました。

働きやすい職場づくりを目指して　　匝瑳市（大木幸恵・伊藤和子）

市の男女共同参画推進員の田邊さんに取材をお願いし、匝瑳市みどり平工業団地内にある日新工業さん（非鉄金属、プラスチックリサイクル会社）へ伺いました。

管理職工場長として働きやすい会社をつくるため、たくさんの改革を行っていました。業績向上はもとより、まずは、中堅的立場のリーダー７名と週１回ミーティングを持ち（現在２００回）問題を率直に話し合い解決する。一例として、食堂休憩室の掃除・洗い物等、女性の仕事とされていたが、話し合い、全員当番制で行うようになりました。

また、休暇についても、「子育て・看護・介護をはじめ休暇を取りやすくし、体調を崩した時なども無理をしないよう声掛けをすることで、各部署間が統一化され、連帯感が生まれ、お互い様という気持ちが広がった」とのこと。

今回お忙しい中にも関わらず、リーダーの方たちも取材に応じてくださり、口を揃えて、「働きやすく良い職場！」と話してくれました。「まだまだ課題はありますが、これからもミーティングを重ねながら、男女の区別なく皆が働きやすい職場環境を求めていく」とのことでした。

取材を終え、さわやかな新風を感じました。

＜発　行＞　千葉県男女共同参画地域推進員（海匝・山武地域）
＜事務局＞　千葉県男女共同参画センター
〒260-0001　千葉市中央区都町２－１－１２　千葉県都町合同庁舎１階
Tel　043-420-8411　Fax 043-420-8581